

「石材再生友の会」会報誌(ケイ・アンド・エス)

萌黄 (もえぎ)

通信

2007年 5号 NO.37

ホームページ ↓

<http://www.e-kands.jp>

***「萌黄通信」は写真入になりました。**

メール配信ご希望の方は、kandsstg@jt4.so-net.ne.jp までお知らせ下さい

***社長ブログ「石材メンテナンスの旅」**

はじめました。 K&Sホームページ
<http://www.e-kands.jp>から入って下さい

山梨県のイベント
河口湖ハーブフェスティバル
期間 6月22～7月16日
湖畔に咲き誇るラベンダーが紫色に輝く絨毯を作り出し、辺り一面ラベンダーの香りが溢れる、花の世界を満喫できます。イベント期間中にはたくさん催し物が開催されます。富士河口湖の澄んだ空気とラベンダーの香りに癒されにきませんか?

萌黄通信

発行元 有限会社ケイ・アンド・エス
本社山梨 電話 0556-22-3237
Fax 0556-22-3236
東京(営) 電話 03-3431-0387
メール kandsstg@jt4.so-net.ne.jp

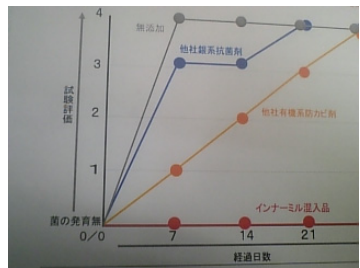
みなさん、お元気ですか?
この季節は、花々が咲き開き、とても綺麗です。自然を感じに外へ出てみませんか!
今月号は、新石材コートのお知らせです。

「石材の防カビ対策は出来ていますか?」

今年も梅雨の季節がもうすぐやってきますが、石材も水回りでは、カビが発生しやすくなる季節です。従来の浸透型の吸収防止剤でも、石材の中に、水分がこもらないので、かなりカビの発生は抑えられるのですが、石材の中でも、比較的吸水性の高い、ライムストーンや砂岩、凝灰岩などには、浸透型の吸収防止剤の中に、抗菌剤を添加(4%)してあげると、更に防カビ効果が向上します。

なぜ、抗菌性があるのかというと、細菌、真菌、藻類など253菌に対して強力な抑止力をもっているからです。

最近はやり銀系抗菌剤や光触媒なども抗菌効果をうたっていますが、実際には抗菌対象が少なかったり、石材は吸水性があるので、光触媒などは塗布しても吸ってしまったり表面に残らなかったりして、すぐにカビが再発しているところがほとんどです。洗面台、お風呂場、外壁などで石材を使用している場合に効果を発揮します。



憂鬱なカビのシーズンを抗菌剤で乗り切りましょう。
写真説明
上図 ↓赤字(イソナーミル工法)が新抗菌剤です
下図 ↓左は無塗布、中は2%混入、右は4%混入品

「ウェットコート新作」

石材用ウェットコートもいろいろあり、浸透性タイプから、塗膜タイプとあるのですが、ウェット感を長期に渡って保つには、やはりなんといっても塗膜タイプになると思います。

紺商、ミヤキ、アドバンスそれぞれで発売していますが、今までは、石材の色を濃くすることが課題とばかりに濃い深いウェットコートはたくさん出回っていますが、もう少し淡い感じのウェット感は出来ませんかという問合せも多いのも現状ではありました。そこで、この度アドバンスにて、受注生産ですが淡いウェットコートが発売になりました。

硬度は変わらず(7~8H)で色戻りが比較的よいので、石色は出来るだけ素地に近く硬度だけ上げたい床石などには、最適かと思えます。(石材内、左側)



石材の風化対策「ハードストーン」

建築石材は、長い年月で風雨にさらされたり、水に浸かったりした部分は、表層剥離を起こすことがあり、一種の風化作用です。個々数年前の物件で、事前に浸透性のコートを塗布してあるものは、石の目深くに水分が入り込むことが無いので、石材が膨張する事が少なく、表層剥離も少ないのですが、歴史ある建造物などでは、長い間、潮水や風雨にさらされて、かなり劣化の激しい物もかなりあります。

そこで、その風化して、表面が剥離を起こして弱った部分の隙間に珪酸化合物を流し込み、硬化させて、石材自体の基質を強化させるコート剤「ハードストーン」のお知らせです。

今回は「ハードストーン」の凝固性の強さをお見せるために、川砂を使ってテストします。

① ② 川砂を紙コップに最初にいれます。
③ その中へ、「ハードストーン」を砂の高さ位まで浸します。

④ 三日後にコップから取り出すと凝固しているのが分かります。

実際の乾燥時間は2週間ほど掛けて、ゆっくりと奥深くまで浸透させていくのが望ましい施工法です。

